



屋外で過ごすのにちょうどいい気候になり、里山の家の前道路には動植物園に向かう車の長い列ができていました。くらしの森にも多くの家族連れが訪れる中、子どもの参加の多い自然観察会となりました。

カエル池のそばのマサキでは、毎年この時期たくさんのミノウスバが産卵に訪れる様子を見てきました。でも今年は産卵中のメス一頭とその近くにとまっているオスを確認できただけでした。マサキには花が咲いていました。マサキの花は例年6月に観察していますが、季節を間違えているようでした。そのほか、色づいたカラスウリの実やツチイナゴが見つかりました。葉の上でワカバグモがハエの仲間を捕食していました。



産卵中のミノウスバ



ミノウスバのオス



マサキの花



カラスウリ



ツチイナゴ

ハエの仲間を捕食する
ワカバグモ

子どもたちがオオオナモミの実を取って、洋服や帽子につけたり投げたりして遊んでいました。エノキの葉の表にアカボシゴマダラの幼虫を見つけたと聞いて、どこにいるかみんなで見つけました。葉の色と似ていて見つけるのに時間がかかりました。中道沿いの大きなキノコはオオワライタケと言いつ毒があるそうです。



オオオナモミで遊ぶ



アカボシゴマダラの幼虫



オオワライタケ

炭焼き広場の東側の崖で子どもたちがはしゃいでいました。小さな崖ですが、子どもたちの冒険心をくすぐる要素は備えているようです。ユキヤナギに白いものがついていました。一見花が咲いているように見えたが、花ではなくイセリアカイガラムシでした。また、ガガイモが巻きついて実がなっていました。



崖で遊ぶ子どもたち



イセリアカイガラムシ



ガガイモの実



炭焼き広場の**ウバメガシ**には今年も**ドングリ**がなっていました。中道では**コナラのドングリ**も観察しました。先月は**アベマキのドングリ**が大量に落ちていましたが、この日は地面に落ちたドングリから根が出ているものや、根がある程度長く伸びたあと、その付け根から芽が出始めているものがありました。



ウバメガシのドングリ



コナラのドングリ



芽が出たアベマキのドングリ

シャシャンボの実がちょうどいい具合に熟していたので、みんなで食べました。**シラタマホシクサ**の枯れた花を調べると付け根には硬くて小さな種があり、注意深く取り出してみました。家で発芽させてもなかなかうまく育たないそうです。久しぶりに**キラニン**道路を上って、**アキノキリンソウ**が咲いているのを見に行きました。アキノキリンソウはくらしの森では数が少なく、ここでだけ見られるとのことでした。



シャシャンボ



シラタマホシクサの種



アキノキリンソウ

展望広場の周辺の樹高の低い針葉樹は、**ネズミサシ**か**ハイネズ**ということでしたが、後日**ネズミサシ**とわかりました。白っぽい実をつけていました。すぐ近くに**マメガキ**が枝ごと落ちていました。この辺りにマメガキはないのでカラスが運んで来たのだろうと予想しました。広場の近くには**アカマツ**が見られました。マツタケはアカマツ林に生えますが、残念ながらここではその条件は整っていないようでした。



ネズミサシ



マメガキ



アカマツ

展望広場の近くには**スタジイ**の木があり、殻斗を伴ったドングリがいくつも落ちていました。スタジイは小さいながらもそのままでも食べられるドングリで、硬い殻を歯で割って食べてみて「美味しい」と言う参加者もいました。最後にこの日拾った**いろいろなドングリ**を並べてみました(左からアベマキ、スタジイ、ウバメガシ、アラカシ、コナラ)。帰り道では中道の脇の**ウマノスズクサ**が草刈りで刈り取られてしまわないように保護されているのを見ました。ウマノスズクサはジャコウアゲハの食草です。



スタジイのドングリ



ドングリのいろいろ



ウマノスズクサの保護

観察項目(観察順): ジョロウグモ, マサキ, ミノウスバ, ツチイナゴ, ワカバグモ, カラスウリ, オオオナモミ, キンミズヒキ, イセノナミマイマイ, タラヨウ, アカボシゴマダラの幼虫, オオワライタケ, アベマキのドングリ, アキノレ, ウバメガシ, ユキヤナギ, イセリアカイガラムシ, ガガイモの実, コナラ, シャシャンボ, シラタマホシクサの種, アキノキリンソウ, ネズミサシ?, ノコンギク, ネジキ, マメガキ, センリョウ, アカマツ, コカマキリ, スタジイ, ウマノスズクサ, ジョウビタキの声